



平成 24 年 3 月 14 日

各 位

会 社 名 J Xホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 高萩 光紀  
コード番号 5020 東・大・名証第1部  
問合せ先 財務IR部 IRグループ マネージャー  
山本 真義  
(電話番号 03-6275-5009)

### 当社子会社による石炭事業の拡大について

当社子会社のJ X日鉱日石エネルギー株式会社（社長：木村 康）が 100%出資するJ Xニッポン・オイル・アンド・エナジー（オーストラリア）（本社：シドニー、社長：飯塚 修）は、エクストラクタ・コール（チーフエグゼクティブ：ピーター・フライバーグ）のカナダにおける原料炭開発鉱区の25%の権益および日本向け販売権を取得しましたのでお知らせいたします。

なお、これに伴う現時点での当社連結業績への影響は軽微です。

以 上

- 「添付資料」 1. 当社石炭事業の拡大について  
2. エクストラクタ・コールとJ X日鉱日石エネルギーのカナダにおける原料炭  
合併事業の開始について

2012年3月14日

各位

**当社石炭事業の拡大について**

当社（社長：木村 康）子会社であるJXニッポン・オイル・アンド・エナジー（オーストラリア）（本社：シドニー、社長：飯塚 修、以下「JXA」という。）は、本日付けのニュースリリース「エクストラタ・コールとJX日鉱日石エネルギーのカナダにおける原料炭合弁事業の開始について」にて発表しましたとおり、エクストラタ・コールのカナダにおける原料炭※<sup>1</sup>開発鉱区の25%の権益および日本向け販売権を取得しました。当社は、このたびの強粘結炭と呼ばれる高品位原料炭の開発・生産・販売事業への進出により、さらなる石炭事業の拡大を進めてまいります。

当社はこれまでも、JXAとエクストラタ・コールによる共同出資会社であるオークブリッジ社を通じて、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州のバルガ炭鉱に13.3%の権益を保有しており、ここで生産される一般炭※<sup>2</sup>を日本の電力会社などに販売しております。また、2011年6月にはインドネシア・西パプア州に炭鉱を保有するホルナ・インティ・マンディリ社の株式の5%を取得し、生産される石炭の日本向け販売権も獲得しております。

今回の権益取得は、従来の電力会社向けを中心とした一般炭事業に加えて、鉄鋼生産に必要な製鉄会社向け原料炭事業も手がけることによって、本格的な当社石炭事業の領域拡大につながるものです。

上流部門（炭鉱事業）において、これまでの一般炭事業での経験を活かすとともに、下流部門（国内販売事業）においても、多くの原料炭ユーザーとは既に石油・一般炭等の取引を有しており、信頼関係にもとづく効果的なマーケティングが可能と考えております。

特に、強粘結炭は、既存の産炭地がオーストラリア・クィーンズランド州等の一部地域に集中しているため、局所的な天候不順により世界的な需給・市場環境が多大な影響を受ける資源です。そのため、今回のプロジェクトによる供給ソースの多様化は、ユーザーの強いニーズに合うものと考えております。また、カナダはカントリーリスクが低く、アジア市場へのアクセスに優れるとともに整備されたインフラを有しており、ユーザーへの安定供給に貢献できる最も有力なソースの一つと評価されています。

当社は、「エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて、持続可能な経済・社会の発展に貢献します」とのグループ理念のもと、グループ成長戦略の一環として石炭事業の一層の強化を図っております。上流権益獲得の推進はその重要な柱であり、今回の権益獲得を大きなステップとして、今後とも石炭事業投資を推進し、資源・エネルギーの安定供給に努めてまいります。

以上

※1：原料炭：製鉄におけるコークス（鉄鉱石から銑鉄を取り出すのに使用）の原料となる石炭。特に、強粘結炭は、粘結性や強度が高く、コークス生成の主原料として用いられる。  
※2：一般炭：発電などのボイラー用の燃料となる石炭。

（参考）当社の主な石炭事業

(参考) 当社の主な石炭事業

1. バルガ炭鉱 (一般炭中心、オークブリッジ社<sup>※3</sup>を通じて 13.3%の権益保有)  
場 所 : オーストラリア・ニューサウスウェールズ州  
埋蔵量 : 可採埋蔵量 3 億トン以上、可採年数 20 年以上  
生産能力 : 約 1,100 万トン/年程度 (拡張計画等により増強の可能性あり)  
販売先 : 日本の電力会社、鉄鋼会社、製紙・化学メーカー等  
(うち当社の国内需要家向け納入実績 750 万トン 2010 年度)  
※3 : 当社が 15.2%の株式を保有する豪州の炭鉱会社
2. ホルナ炭鉱 (一般炭中心、2011 年 6 月 6 日にホルナ・インティ・マンディリ社の 5%の株式取得)  
場 所 : インドネシア・西パプア州  
資源量 : 資源量 1 億トン程度  
生産開始 : 2012 年度中を予定  
生産能力 : 生産量は約 200 万トン/年程度を予定  
販売先 : 日本およびアジア諸国
3. スクンカ・ススカ鉱区 (原料炭、2012 年 3 月 13 日に鉱区保有会社株式の 25%を取得)  
場 所 : カナダ・ブリティッシュコロンビア州  
資源量 : スクンカ鉱区 2.4 億トン程度、ススカ鉱区 2.4 億トン程度<sup>※4、※5</sup>  
※4 : その他、今回出資するプロジェクト会社のひとつであるファーストコール社が周辺に多大な権益を保有。今後詳細な探査を実施し開発計画を策定する。  
※5 : ススカ鉱区の埋蔵量はロッサン地区のみのもの。隣接するファーストコール社の鉱区の一部と一体開発による埋蔵量は増加する見込み  
生産能力 : 生産数量約 950 万トン/年程度を予定  
販売先 : 日本およびアジア諸国の鉄鋼会社





JX日鉱日石エネルギー



2012年3月14日

各位

エクストラータ・コール  
JX日鉱日石エネルギー株式会社

### エクストラータ・コールとJX日鉱日石エネルギーのカナダにおける原料炭合併事業の開始について

エクストラータ・コール(チーフエグゼクティブ:ピーター・フライバーグ、以下「エクストラータ」と)とJX日鉱日石エネルギー(社長:木村 康、以下「JXエネルギー」)は、カナダ西部のピースリバー炭田において原料炭合併事業を開始しましたので、お知らせいたします。

JXエネルギーの子会社であるJXニッポン・オイル・アンド・エナジー(オーストラリア)(本社:シドニー、社長:飯塚 修、以下「JXオーストラリア」)は、エクストラータより下記の隣接する原料炭権益の100%を保有しているエクストラータ・コール・ブリティッシュ・コロンビア・グループ(以下「XCBC」)の持分25%を435百万米ドルで取得しました。

- ファースト・コール・コーポレーション社(以下「ファースト・コール」):  
2011年8月エクストラータが取得、10万ヘクタール以上の鉱区を保有
- 旧ロッサン石炭権益: 2011年10月、エクストラータが取得
- スクンカ石炭権益(以下「スクンカ鉱区」):  
2012年3月8日にエクストラータが買収を発表し、3月13日に取得完了

エクストラータはXCBCの持分の75%を保有し、本合併事業が保有する鉱区の開発、操業および運営を行います。また、JXエネルギーは、JXオーストラリアを通じXCBCの持分25%を保有し、ファースト・コール所有鉱区およびスクンカ鉱区から産出される原料炭の日本向け総販売代理店を務めます。

XCBCのプロジェクトのうち、調査が先行しているスクンカ鉱区およびススカ石炭プロジェクト(以下「ススカ鉱区」、旧ロッサン石炭権益と近接するファースト・コール所有鉱区の一部を統合し、より大規模な露天掘りプロジェクトと発展させたもの)は、あわせて950万トン/年の生産が可能との技術調査結果が出ております。産出される石炭の大部分は強粘結炭が占め、一部はPCI炭(高炉製鋼において微粉炭吹込に用いられる石炭)となる見込みです。

スクンカ鉱区は、NI 43-101(カナダにおける鉱物資源プロジェクト情報開示基準)に基づいた確定および推定資源量が2.36億トンに上ります。同鉱区では、資源調査会社のノルウエスト社が、ロングウォール坑内掘りによる強粘結炭生産のプレFS(事前事業化調査)を実施済みです。また、エクスト

ラータの技術調査では、更なる資産価値向上の可能性が示されています。

ファースト・コール所有鉱区(ススカ鉱区に統合した鉱区を除く)は、2012年に認可を取得した後に予定されている本格的な探査開始に向けた準備が順調に進められています。過去の探査結果、最近実施された調査のいずれにおいても、大規模な輸出向け品位の原料炭賦存の可能性が示されています。

#### JX日鉱日石エネルギー 社長 木村康のコメント

「当社とエクストラータは、豪州のオークブリッジ社における合併事業を通じ、パートナーとして長年に亘り強い信頼関係を築き上げてきました。今般の機会は、当社が初めて強粘結炭事業に進出するという点で、大きな意義があります。

我々の今回の共同事業は、従来の電力会社向けを中心とした一般炭事業に加えて、鉄鋼生産に不可欠とされる製鉄会社向け原料炭事業へも本格的にその領域を拡大するものです。

エクストラータは石炭プロジェクトの開発やその価値の最大化において非常にすぐれた実績を誇っており、強粘結炭の長期安定供給に貢献する今回の新規事業においても、その能力がいかに発揮されるものと考えております。」

#### エクストラータ・コール ピーター・フライバーグ チーフエグゼクティブのコメント

「JXエネルギーと当社は、オーストラリアで共同出資を行っているオークブリッジ社を通じて長年に亘り強固で素晴らしい協力関係を築き上げてきました。今回、この西カナダにおける大規模原料炭事業を立ち上げるにあたり、再び長期に亘るパートナーとして共同事業を営めることを嬉しく思います。

2011年8月から行ってきたファースト・コール、ロッサン及びスクンカの統合を通じて、当社は原料炭事業への取り組みを強化して参ります。また、これらプロジェクト間のシナジー効果により生まれる、大規模かつ効率的な炭鉱の一体開発により、株主価値の多大なる向上に寄与すると考えています。」

両社はXCBCについての合併事業契約を既に締結し、エクストラータによるスクンカ鉱区の取得完了と同時に、JXオーストラリアによるXCBCへの出資も完了しております。

なお、本件においてJ.P.モルガンがJXエネルギーのフィナンシャル・アドバイザーを務め、JT ボイドが技術アドバイザーを、ノートン・ローズが法務アドバイザーを務めました。また、ベネット・ジョーンズおよびキング&ウッド マレソンズがエクストラータ社の法務アドバイザーを務めました。

以 上

【本件に関するお問合せ先】

**エクストラータ・コール:**

<b>Kathryn Lamond</b>		<b>Alison Flynn</b>	
電話番号	+612 9253 6789	電話番号	+44 20 7968 2838
携帯番号	+61 (0) 417 074 751	携帯番号	+44 7769 314374
Email	<a href="mailto:klamond@xstratacoal.com">klamond@xstratacoal.com</a>	Email	<a href="mailto:aflynn@xstrata.com">aflynn@xstrata.com</a>

[www.xstratacoal.com](http://www.xstratacoal.com)

**JX日鉱日石エネルギー:**

**広報部広報グループ**

電話番号 03-6275-5046

[www.no.e.jx-group.co.jp](http://www.no.e.jx-group.co.jp)

**参考**

**エクストラータ plc 社(エクストラータ・コールの親会社)について**

主要鉱物資源の大手生産者。銅、一般炭・原料炭、フェロクロム、亜鉛およびニッケルの生産に関しては世界で五指に入ります。銀、鉛、プラチナ、金、コバルトおよびバナジウムも生産。これらの鉱物資源は、ビルの建設、送電、ジェットエンジンから携帯電話の開発に至るあらゆる物に使用されています。

2002 年設立、本拠地はスイス。世界 20 カ国に亘り事業を展開し、100 以上の事業及びプロジェクトにおける従業員数は 7 万人以上。起業家精神および大胆な手法に基づき、責任ある持続可能な事業を追求しています。詳細は、[www.xstrata.com](http://www.xstrata.com) をご参照願います。

**エクストラータ・コールについて**

発電に用いられる高熱量一般炭の世界最大の輸出者であり、鉄鋼生産に用いられる石炭の生産についても大手の一角。豪州シドニーに本拠地を置き、豪州、南アフリカおよびコロンビアに 30 以上の炭鉱の権益を有し、カナダにも開発段階のプロジェクトを保有。2011 年度のダウ・ジョーンズ社発表株式指標 DJSI において鉱業部門 5 年連続 1 位。詳細は [www.xstratacoal.com](http://www.xstratacoal.com) をご参照願います。

**JX日鉱日石エネルギーについて**

JXホールディングス株式会社(東京証券取引所上場、証券コード5020)の100%子会社であり、JXグループにおける中核事業会社。石油精製、石油製品・石油化学製品の販売、ガスや石炭の輸入販売、電気の供給および燃料電池の製造・販売を主要事業とする総合エネルギー企業。

詳細は [www.no.e.jx-group.co.jp](http://www.no.e.jx-group.co.jp) をご参照願います。

各鉱区のロケーション スクンカ(赤)、ファースト・コール(黒)、ススカ(紫)

